

道徳授業地区公開講座

道徳授業地区公開講座とは、家庭及び地域社会、そして学校が一体となって「豊かな心」を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、平成10年度から都内公立小・中学校等で実施している東京都教育委員会による取組です。

本日は道徳科の定番教材である「二通の手紙」を共通題材に全学年全学級で授業をデザインして公開しました。平日での公開となり参観がしにくく状況でしたが・・・時間割も急遽変更になり・・・参観いただいた皆様ありがとうございました。

全校で考えた「二通の手紙」のあらすじをまとめてみたので、各ご家庭で今夜の話題にしていただければと思います。「遵法精神・公徳心」について考え、議論しました。

二通の手紙（あらすじ）

動物園の入園係をしていた元さん。勤勉な働きぶりで定年後も動物園で臨時職員として働くことになっていた。ある日、入園終了時刻が過ぎてから幼い姉弟がやってくる。入園時刻を過ぎていること、さらには保護者同伴が入園規則になっているが、元さんは事情を察して二人を入園させてしまう。

閉園時刻を過ぎても姉弟は戻ってこない・・・。

職員による姉弟の搜索が始まる。二人は遊んでいるところを無事に発見された。

数日後、姉弟の母親から謝罪と感謝の手紙が届く。一方、上司からは規則違反の懲戒処分の文書を受け取る。元さんは「この年になって初めて考えさせられることばかりです。この二通の手紙のおかげですよ。また、新たな出発ができそうです。本当にお世話になりました」と語り、退職した。





授業後には、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの戸上琢也総括研究官（令和4年度本校主幹教諭）に来校いただき協議会を行いました。

